

# 第8分科会

## 初年次教育の「場」とは何か？

### ：3大学のコロナ以前・以後の事例を通して

#### 分科会概要：

初年次教育は、どの大学等にとっても、高校と大学の接続をする重要な科目として位置づけられている。ただし大学等によってその目的や方法は様々で、それぞれが特色ある授業を展開している。このたび、新型コロナウイルス感染症禍により、初年次教育の授業の多くがオンライン化を迫られることになった。オンライン化により、学生、教員ともにメリット、デメリットのいずれも感じていると思われる。本分科会では初年次教育のオンライン化の様々な事例を通して、そのメリット、限界等を客観的に捉えつつ、これからの初年次教育の「場」のあり方について考えたい。

本分科会は次のように構成される。まずは3つの大学の教員にそれぞれの大学の初年次教育の目的、方法、特色等や新型コロナウイルス感染症禍での経験等を具体的に報告いただく。その後、パネルディスカッションを行い、参加者の皆さんとの質疑応答を通して、このテーマを深めていく。

#### <プログラム>

- 14：00 趣旨説明 京都産業大学 生命科学部 教授／  
教育支援研究開発センター 副センター長 白鳥 秀卓 氏
- 14：05 講演 1. 京都産業大学 文化学部 教授 鬼塚 哲郎 氏
- 14：45 講演 2. 京都薬科大学 分析薬科学系 教授 武上 茂彦 氏
- 15：25 講演 3. 明星大学 人文学部 教授 菊地 滋夫 氏
- 16：05 総合討論（パネルディスカッション）